

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援事業所 ふるさとの森 おはな		
○保護者評価実施期間	令和7年12月19日		～ 令和8年1月9日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	28名(利用児数29名)	(回答者数) 23名
○従業者評価実施期間	令和7年12月19日		～ 令和8年1月9日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8名	(回答者数) 8名
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年2月6日		

## ○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	法人が知的障がい者の支援施設であり、法人内に知的障がい者入所・通所施設があり、その他にも就労B型・放課後等デイサービスなどがあり、障がい特性についても知識が豊富な職員が揃っています。また様々な年代で障害を抱えた方への丁寧な支援が可能です。それぞれの年代で継続した利用者支援が行えることも強みです。	法人で開催される行事には幅広く案内を行い、法人内のそれぞれの事業所を知っていただく機会を作り、それぞれの年代で必要なサービスを受けられる様に案内を行っています。特に、放課後等デイサービスへの移行は、行事等の際に細かな説明を行う時間を設け、保護者さんの疑問や不安に丁寧にお答えできる様に努めています。	地域の子供達とご家族を幅広く参加できるような行事の企画案内。
2	まず親子で療育に参加して頂くことで、お子様が集団生活の中で抱える特性や適応行動の実態を知り、ご家族と一緒に子供さんへの支援を考えて進めていくことができるところも強みです。	利用開始の際は必ず10回程度は親子でご参加いただき、ご家庭以外の集団の中でのお子様の様子を知って頂ける様な活動を工夫して設定し、就学に必要なスキルをどのように身に付けていくべきかをご家族と一緒に考え、ご家族の役割(ご家庭での支援の仕方)についてもお伝えできる様にしています。(家族支援)	支援者自身の研修やスキルアップに繋がる取り組み。また、ペアレントトレーニングなどの研修案内や、ペアレントトレーニングについての情報提供の機会を増やす。
3	自然豊かな立地にあり季節を肌で感じながら、植物や生き物に直接触れることができます。	一年を通じて法人内の散歩や散策を取り入れ、身体を使った遊びを行うと同時に、自然に触れて感触過多の軽減や、自然を「見る」自然に「気付く」「触れる」などを意識して取り入れられる様にしています。(五感の刺激)	安全に遊べる園庭の確保と充実。砂場などの感触遊びの場所の拡充も行っていきたいと思っています。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	自然に囲まれた立地にある為、自然災害の影響を受けやすい。	立地の条件により台風時は電気・水・通信などのライフラインがストップしやすい。	予測できる自然災害に関しては、事前の準備と対策、利用者様にはできるだけ早目の連絡ができる様な体制作りを確立しておく。また、契約時には法人で作成している安全マニュアルを提示して有事の場合にどうするかなどの情報共有も行う様にしていく。
2	職員一人一人の療育力や専門性の向上などに向けて、研修案内はあるものの、療育時間や職員の勤務形態の問題などから参加に繋がる機会が少ない。	利用児がいる時間帯に多くの職員が勤務をしており、それ以外の時間に研修を行うとなかなか全ての職員の参加ができない。	利用児の居ない時間を作り、そこを研修に当てることができないか検討したい。
3			